

黒田庄まちづくり協議会より

第157号6月

去る5月21日(火)午後7時30分より黒っこプラザ大ホールに於いて、黒田庄まちづくり協議会の総会を開催しました。

委員120名のうち、本人出席71名・委任出席33名の合計104名の出席があり、平成30年度事業報告・会計決算報告、副会長の選出、組織等、令和元年度事業計画(案)・会計予算(案)について審議し、全議案が承認されました。

副会長の選出では、前副会長の村上隆雄氏(石原)の退任に伴い、新副会長に坂本政和氏(前坂)が選出されました。



総会の様子

令和元年度事業計画では、まちづくりのための目標を“千年の風土を未来につなげるNEW黒田庄づくり”とし、参画する団体・人々が話し合い、自主的・主体的に計画を実践すると共に、様々な課題解決を目指し、各事業部会や協議会全体で次のような事業に取り組みます。

地域交流部会

第42回にしわき市・黒田庄夏まつり、第9回黒田庄軽トラ市、各自治会の交流カフェづくり、生涯学習・スポーツの振興・人権学習の推進などに取り組みます。

くらし安心部会

福祉送迎車の運行、防災体制づくり、子ども見守り活動、インドヨガ教室などに取り組みます。

観光・特産部会

黒田庄駅舎「あつまっ亭」周辺の活性化、秋谷公園遊歩道遊歩道及び登山マップを活用したイベント、特産品の開発・PRなどに取り組みます。

広報部会

黒田庄つうしん発行、フェイスブックによる黒田庄の情報発信などに取り組みます。

その他事業

黒田庄まちづくり協議会に参画する団体等が事業を実施する場合に、その経費の一部を助成することにより、課題解決に取り組みやすい環境をつくれます。また、西脇市コミュニティセンター黒田庄地区会館及び西脇市黒田庄交流拠点施設あつまっ亭の指定管理業務を行います。

★活動費助成申請について★

所定の申請書に必要事項を記入のうえ、7月10日(水)までに、黒田庄まちづくり協議会(黒っこプラザ内)に提出してください。



編集・発行
黒田庄まちづくり協議会
西脇市黒田庄町前坂2140番地
TEL 28-2121
令和元年6月15日発行



黒田庄地区の人口
(R元.6.1現在)
男 3,270
女 3,468
計 6,738
世帯数 2,623
人口前月比 (-17)

黒田庄こども園 ☆令和元年度 理事・監事・評議員の紹介☆

今年度の黒田庄こども園 理事・評議員・監事は、次の方々に構成されています。(敬称略)

理事長	藤本 恭造	
職務代理	杉原 慶一	
監事	坂本 政和	村上 明廣



住所	氏名	役職名	住所	氏名	役職名
津万井	藤本 恭造	理事長	石原	吉本 豊	評議員
喜多	杉原 慶一	理事	田高	荻野 芳樹	評議員
大門	藤井 建	理事	船町	西村 忠行	評議員
津万井	石井 能男	理事	小苗	津瀬 秀一	評議員
福地	村上 勝則	理事	黒田	森脇 弘己	評議員
岡	松本 芳和	評議員	前坂	坂本 政和	監事
門柳	村上 辰巳	評議員	住民代表 岡	村上 明廣	監事
大伏	大山 岩一	評議員	こども園	吉田 和弘	理事
西澤	飛田 正義	評議員			

黒田庄こども園理事・監事・評議員会は、「地域の子どもは、地域で育てる。」のもと、地元住民の方々の理解と協力を得て、子どもたちが安心して健やかに成長できるよう、区長会が中心となって運営されています。就学前の子どもたちの教育・保育について協議いただき、園の円滑な運営と心豊かな子どもたちの育成に寄与いただいております。

園児数は、0歳児が3名、1歳児が12名、2歳児が21名、3歳児が35名、4歳児が31名、5歳児が38名で合計140名であります。

西脇市消防団第7分団 実践操法大会開催される

去る5月26日(日)に黒田庄コミュニティ消防センター(田高)に於いて、第13回西脇市消防団第7分団実践操法大会(黒田庄地区大会)が開催されました。この消防実践操法大会は「火点」と呼ばれる的を抜く速さや器具操作の正確さ、消防活動の安全性を競い合うものです。結果は、小型動力ポンプの部では門柳部が優勝し、準優勝は大門部、第3位は小苗部でした。



競技開始前の整列



火点への放水



競技終了の報告

また、去る6月9日(日)に開催された西脇市消防団実践操法大会に小型動力ポンプの部で門柳部、自動車ポンプの部で岡部が出場しました。

結果は、小型動力ポンプの部では第4分団小坂部が優勝、第7分団門柳部が準優勝、自動車ポンプの部では第5分団比延部が優勝、第3分団板波部が準優勝しました。



虹の会工房 就労継続支援B型事業所&生活介護事業所

NPO法人虹の会工房多機能型事業所の令和元年度通常総会が5月29日(水)に西脇市社会福祉協議会会長大久保恵司様、西脇市福祉部長細川喜美博様をお迎えして開催され、平成30年度の活動報告並びに令和元年度の下記事業活動計画等が承認されました。

【 就労継続支援B型事業活動計画 】

- 1 内職、喫茶、また社会体験活動や余暇活動の充実を図ることによって就労意欲を高めるよう努めます。
- 2 お菓子の注文販売、バザー、委託販売等で自主製品の売上向上に努めます。
- 3 特別支援学校の実習や中学校のトライやるウィークに協力すると共に特別支援学校卒業生の受け入れ等、地域の障がい者就労支援を意識した活動に取り組みます。



【 生活介護「げんき」事業活動計画 】

- 1 生活に必要なコミュニケーションを豊にするため、多種多様な社会体験や人との交わりを積極的に計画し実施します。
- 2 一人ひとりの個性を大切にし、利用者さんが「楽しく・仲良く・元氣よく」を目標に活動できるよう努めます。

お中元承ります
商品・金額等に応じて準備させていただきます。
ご利用ください。
TEL28-5128

【 日中一時支援事業活動計画 】

日中において一時的に見守り等の支援が必要な障がい者に、日中活動の場を提供する共に、見守り及び社会に適応するための日常的な訓練等を行います。

< 黒田庄こども園ニュース >

< 親子で楽しく、歌ったり、踊ったり... >



去る5月31日(金)に黒田庄体育センターにおいて、親子会を開催いたしました。こども園と保護者役員会が中心となって、親子のための「親子会」を開催いたしました。

当日は、榎本 秀樹さん・くぼ ななこさんを講師に招き、親子で楽しく動き、歌を歌いました。榎本さんは、エノちゃんの愛称で親しまれ親子で体を動かしたり、歌を楽しく紹介してくださいました。

また、くぼさんは、ななこお姉さん?として有名で歌を歌いながらリズムをとったりと...、最後はみんなで「パプリカ」も歌いました。

前座としての保護者役員会の皆さんによるゲームは、アンパンマン体操やO×クイズなど、なかなかのものでした。

先生方のフラフープも上手でしたが、園長のけん玉はうまいきませんでした。でも、とっても楽しかったです。

役員の方のご苦労様でした。

午後は、園内研修で、事例をあげながらのロールプレイ研修です。子どもたちを健やかに育てるために、職員の教育力・保育力アップになるよう研修いたしました。

午後からの保育がなくなりましたが、ご了承ください。



< 親子会の一コマ >

黒田庄地区人権のまちづくり協議会

<総会が開催されました！>

5月17日(金)に、黒っこプラザに於いて、黒田庄地区人権のまちづくり協議会総会が開催されました。本年度は85名が参加し、事業計画(案)等、6議案が拍手で承認されました。総会終了後には人権啓発DVD「なくそう！職場に潜む心の病」を視聴しました。人間関係を良くするためには、傾聴(相手の言葉に耳を傾けて聴くこと)が大切だということを学びました。



役員

- ・ 会 長 宮崎 正則
 - ・ 副 会 長 藤井 清孝 吉田 和弘
 - ・ 会 計 中根 良介
 - ・ 会 計 監 査 大西 宏樹 森口 浩行
- 顧問 藤本 恭造 藤原 悟

「人権文化をすすめる市民運動」
推進強調月間講演会について
8月28日(水)19:30~
講師:ハイマーヤンジンさん(チベット声楽家)
黒っこプラザにて

<研修会のご案内>

パパは女子高生だった~自分らしく生きること~

最近、「LGBT」「セクシュアル・マイノリティ」という言葉を耳にする機会が増えました。偏見や差別を恐れ、悩み、苦しむ当事者の方がたくさんいることをご存知でしょうか。まずは、知ることから始めませんか？そしてお互いを認め合い、誰もが生きやすい社会について、講師の体験談を交えながら、一緒に考えましょう。皆様の参加をお待ちしております。

- ★ と き : 令和元年6月25日(火)19:30~
- ★ 会 場 : 黒っこプラザ2階、大ホール
- ★ 参加費 : 無料

講師:前田 良さん(ジー・アイ・ディー-KAZOKUの会代表)
1982年兵庫県宍粟市に「女性」として生まれる。小さい頃から性に違和感をもっており、20歳のときに「心と身体の性が一致していない」と診断される。その後、名前を変え、パートナーと出逢い、性別を「男性」に戻して結婚。2児の父親。「間違った知識ではなく、正しいことを伝える」ため、各地で講演活動を展開している。



編集後記

先日、西脇市消防団第7分団の実践操法大会に来賓として出席しました。開会式終了後、先ず、自動車ポンプの部で岡部が出場しました。続いて、小型動力ポンプの部では、西澤部から始まり、最後は大門部の出場で競技を終えました。

私も消防団に25年間在籍し、何度もポンプ操法大会出場経験があったので、各部どんな操法をするのか見ていました。各部とも日頃の練習の成果を発揮し、消防団員の士気高揚と消防技術の向上が図れたのではないかと思います。